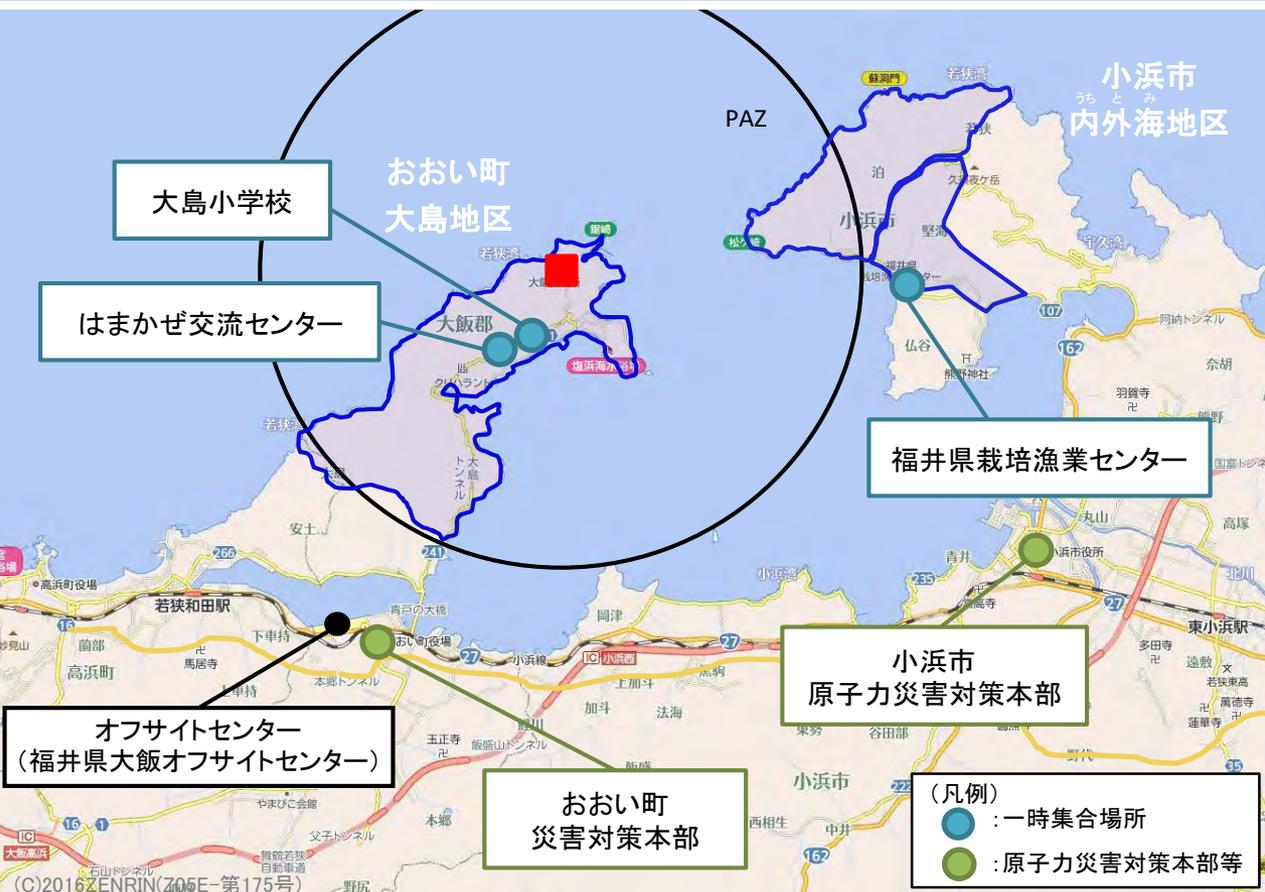


おい町及び小浜市における住民への情報伝達

- PAZ内避難の対象となる地区内の一時集合場所を拠点に、地区単位のコミュニティを活用した情報伝達を実施。
- 一時集合場所へ派遣された市町の職員は、防災行政無線の双方向通信機能や衛星携帯電話等により、おい町及び小浜市災害対策本部と情報を共有。各市町災害対策本部は、入手した情報を防災行政無線（屋外拡声子局・戸別受信機）、緊急速報メールサービス及び広報車等を活用し、住民へ情報を伝達。
- 消防団は、住民の避難の状況等を確認し、一時集合場所に派遣されたおい町及び小浜市の職員と避難者の状況や避難誘導體制等の情報を共有。
- 小学校、こども園、在宅の避難行動要支援者への情報伝達は各市町災害対策本部等から実施。必要に応じ、自治会長等と協力し、情報伝達を行う。



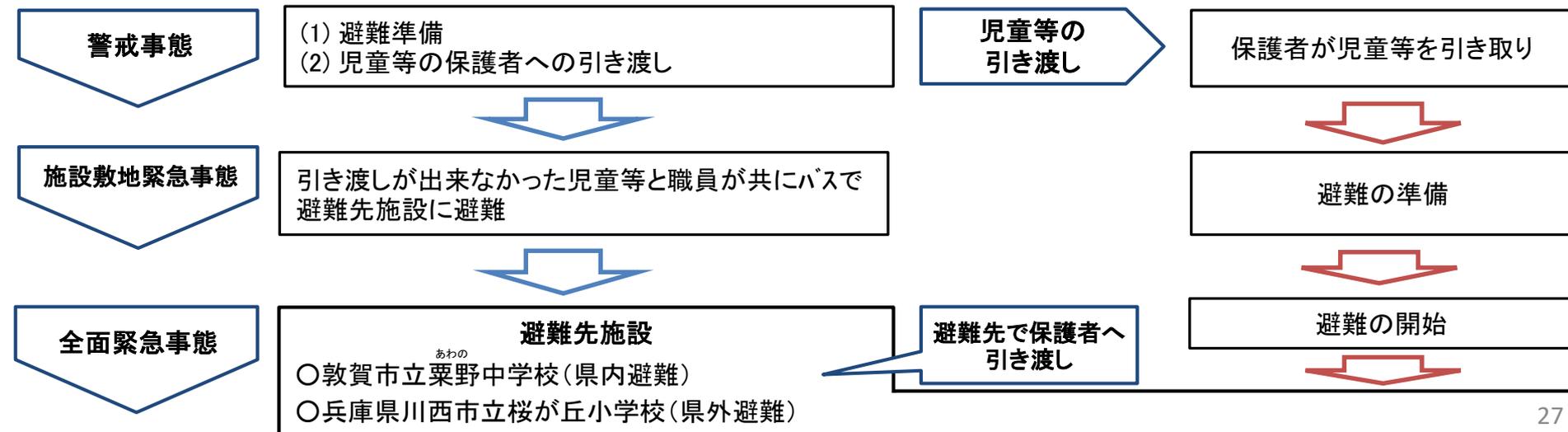
- 防災行政無線やケーブルテレビ放送、緊急速報メールサービス等を活用し住民へ情報を伝達
- 戸別に受信可能な防災行政無線や音声告知放送を市内全戸に設置
- 小学校・こども園、在宅の避難行動要支援者への情報伝達は、各市町原子力災害対策本部が実施

- おおい町及び小浜市災害対策本部・一時集合施設（一時集合場所）間の情報共有は、防災行政無線の双方向通信機能や衛星携帯電話等で実施

- PAZ内の大島小学校の児童(55人)及び大島認定こども園の幼児(53人)は、警戒事態になった時点で保護者の迎え等について保護者あてに連絡(メール配信等)し、児童等の保護者への引き渡しを実施。
- 施設敷地緊急事態になった時点で、保護者への引き渡しができない児童等は、職員とともに福井県又はおおい町が確保するバスで避難し、避難先において保護者に引き渡す。
- 全ての学校・こども園において個別避難計画を策定済。

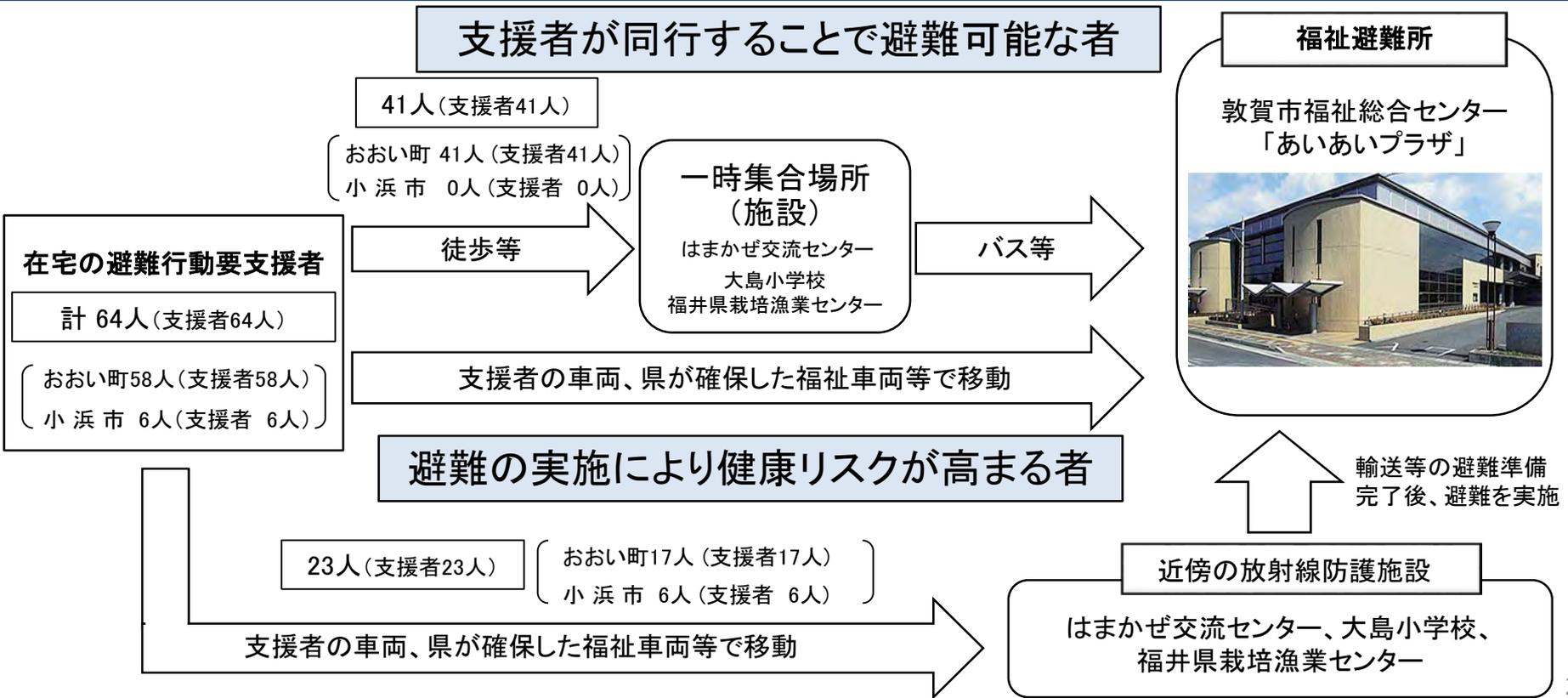
学校・保育所			
学校名	人数(人)		
	児童等	職員	合計
大島小学校	55	14	69
大島認定こども園	53	19	72
合計	108	33	141

※児童等の人数については、平成31年4月1日現在。



ちよう お ばまし
おおい町及び小浜市のPAZ内の在宅の避難行動要支援者への対応

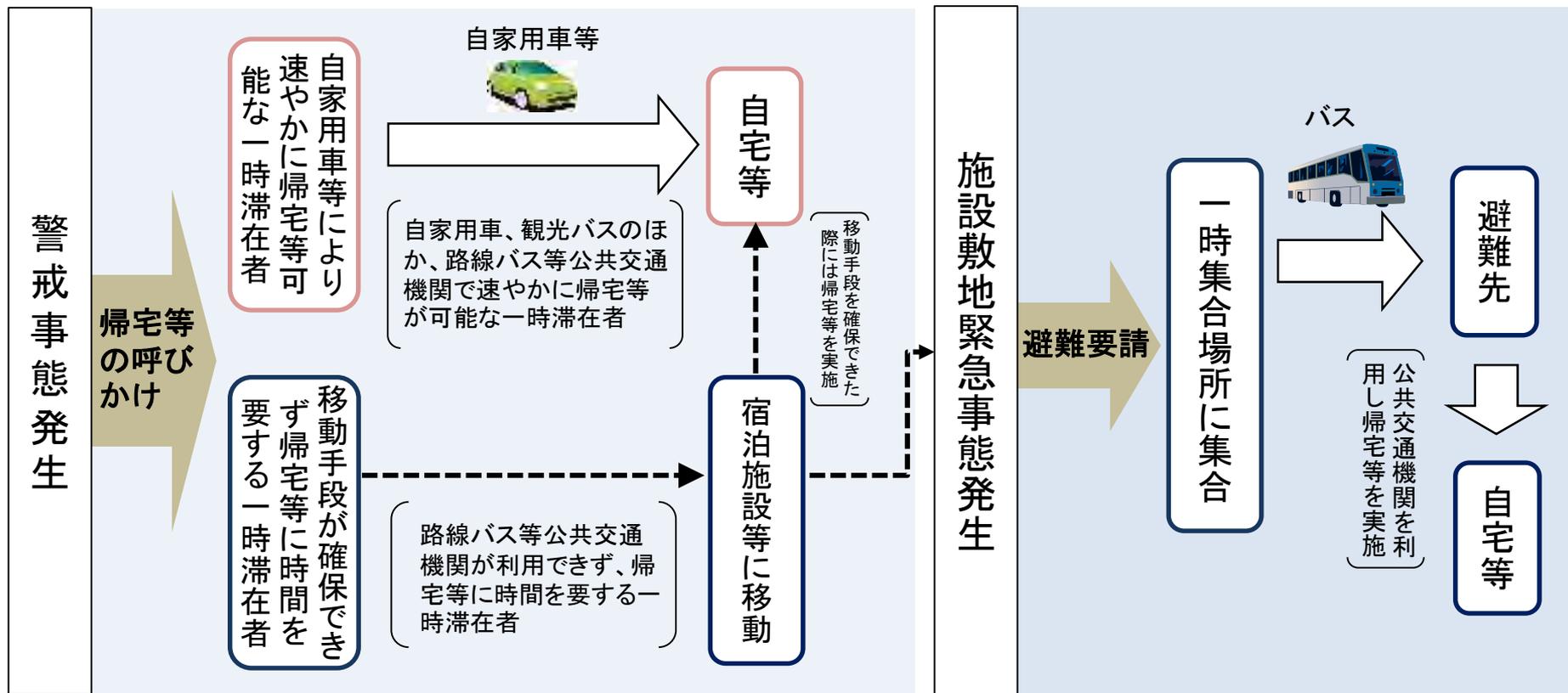
- おおい町及び小浜市では、在宅の避難行動要支援者64人全ての者について、あらかじめ避難先を決めてあり、要支援者台帳を整理の上、家族、近隣住民等の協力を得て、避難時の支援者がいることを確認。緊急時に万が一、支援者が対応することができないような場合には、関係市町職員、自治会、消防職員・団員等の協力により対応。
- 支援者の同行により避難可能な者は、支援者等の車両又はバス等で避難先へ移動。
- 避難の実施により健康リスクが高まる者は、支援者の車両又は県が確保した福祉車両等で、近隣の放射線防護施設へ移動。安全に避難できる準備が整うまで、放射線防護施設内に屋内退避。
- なお、避難行動要支援者のバス等による避難においては、身体的な負担を考慮し、避難中に休憩をとるなど健康に配慮した避難を行う。



PAZ内の観光客等一時滞在者の避難等

- 関係府県及び関係市町は観光客等一時滞在者に対し、警戒事態において帰宅等呼びかける。
- 自家用車等により速やかに帰宅等可能な一時滞在者は、警戒事態の段階で、自家用車等にて帰宅等を開始。
- 路線バス等公共交通機関も利用できない観光客など、帰宅等に時間を要する一時滞在者については、宿泊施設等に移動し、施設敷地緊急事態の段階で避難を実施。避難の際には、徒歩等により一時集合場所に集まり、福井県や関係市町が確保した車両により避難を実施。

<観光客等一時滞在者の避難の流れ>



➤ PAZ内の観光施設における日間入場見込み人数は約1,200人程度、民間企業(従業員30人以上)は存在しない※。

※大飯発電所関連企業を除く

<PAZ内の観光施設の状況>

地区名		施設	入場見込人数(人)	※1
おおい町 <small>ちよう</small>	大島地区	あかぐりざき 赤礁崎オートキャンプ場	882	
		あかぐり苑地	209	
		あかぐり海釣公園	120	※2
				計 1,211人
小浜市 <small>おばまし</small>	うちとみ とまり かつみ 内外海地区(泊、堅海)	—	—	※3
				0人

[合計] 約1,200人 ※4

※1 入場ピーク時(8月)の入場者数を基に算定

※2 おおい町商工観光振興課調べ

※3 小浜市商工観光課調べ

※4 入場者の9割以上が自家用車を利用

<PAZ内の民間企業(従業員30名以上)の状況>

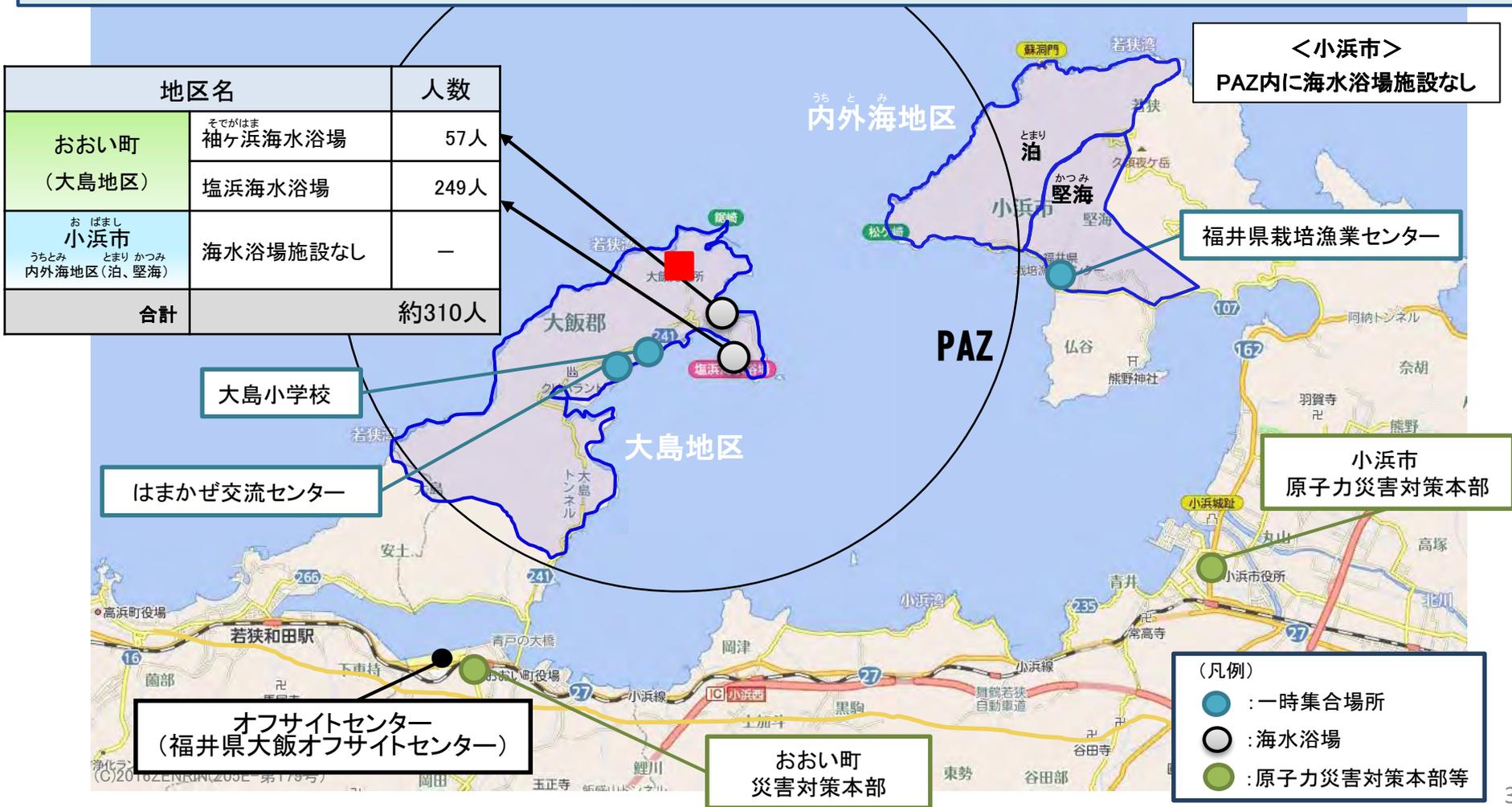
おおい町大島地区内及び小浜市内外海地区(泊・堅海)に、発電所関連以外で従業員30人以上の規模の事業所なし。

※ 30名未満の民間企業の従業員については、通勤に使用する自家用車、バスで避難

※ 出典:平成28年経済センサス

PAZ内の海水浴場及び入場者の数

- おおい町^{ちよう}ではPAZ内に海水浴場が2ヶ所あり、平成30年度シーズンの1日あたりの最大入込客数は約310人。
- おおい町の海水浴客の交通手段は、対象となる海水浴場周辺の駐車場利用率によると全体の9割以上が自家用車利用で、貸切バス及び公共交通機関の利用は1割に満たない。(平成30年度観光客入込調査おおい町)



おい町において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力

➤ おおい町^{ちよう}において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数554人(うち支援者数58人を含む)について、バス14台、福祉車両11台(ストレッチャー仕様5台、車椅子仕様6台)。

	想定対象人数	必要車両台数 ^{※1}			備考
		バス ^{※2}	福祉車両 ^{※3} (ストレッチャー仕様)	福祉車両 ^{※3} (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難	141人 (児童等108人 +職員33人)	4台 (児童等108人 +職員33人)	0台	0台	保護者への引き渡しによりその分必要車両台数は減少【資料P27】
医療機関・社会福祉施設の入所者の避難	該当施設なし				
在宅の避難行動要支援者の避難	82人 (要支援者41人 +支援者41人)	2台 (要支援者41人 +支援者41人)	0台	0台	・支援者等の車両での避難によりその分必要台数は減少【資料P28】
避難の実施により健康リスクが高まる在宅の避難行動要支援者及びその支援者を放射線防護施設に輸送 ^{※4}	34人 (要支援者17人 +支援者17人)	0台	5台 (要支援者5人 +支援者5人)	6台 (要支援者12人 +支援者12人)	・放射線防護施設に輸送 ・支援者等の車両での避難によりその分必要台数は減少【資料P28】
その他の施設敷地緊急事態要避難者(妊婦・授乳婦・乳幼児・乳幼児の保護者等)を避難先施設に搬送	146人	4台	0台	0台	「乳幼児の保護者等」には、乳幼児がいる世帯人数を計上
観光施設から避難する一時滞在者	120人 (1,200人×0.1)	3台	0台	0台	バス1台当たり45人程度の乗車を想定1日あたりの観光客数約1,200人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成30年度観光客入込調査おい町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P30】
海水浴場から避難する一時滞在者	31人 (310人×0.1)	1台	0台	0台	バス1台当たり45人程度の乗車を想定1日あたりの海水浴客約310人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成30年度観光客入込調査おい町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P31】
合計	554人	14台	5台	6台	

※1 数字は現段階でおい町が把握している暫定値

※2 バスは1台当たり45人程度の乗車を想定

※3 福祉車両(ストレッチャー仕様)は1台当たり1人、福祉車両(車椅子仕様)は1台当たり2人の避難行動要支援者を搬送することを想定

※4 「避難の実施により健康リスクが高まる者」は、安全に避難できる準備が整うまで、放射線防護施設内に屋内退避。

おおい町における施設敷地緊急事態での輸送能力の確保

- 施設敷地緊急事態発生時には、在宅の避難行動要支援者、教育機関の避難等のために、福井県嶺南地方のバス会社が保有する車両のほか、おおい町内の医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会や関西電力が配備する車両により、必要車両台数を確保。

		確保車両台数			備考
		バス	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 必要車両台数		14台	5台	6台	
(B) 確保車両台数		計14台	計5台	計6台	
確保先	・おおい町 ・医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会(おおい町)	—	2台	3台	保有車両台数 福祉車両(ストレッチャー) 4台 福祉車両(車椅子) 14台
	バス会社(福井県嶺南地方)	7台	—	—	保有車両台数 バス 193台
	関西電力	7台	3台	3台	保有車両台数 バス 9台 福祉車両(ストレッチャー・車椅子兼用) 21台 福祉車両(車椅子) 11台

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、関係自治体の要請により実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)が必要に応じて支援を実施

小浜市において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力

お ば ま し
 ➤ 小浜市において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数12人(うち支援者数6人を含む)について、福祉車両3台(車椅子仕様3台)。

	想定対象人数	必要車両台数※1			備考
		バス※2	福祉車両※3 (ストレッチャー仕様)	福祉車両※4 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難	該当施設なし				
病院・社会福祉施設の入所者の避難	該当施設なし				
在宅の避難行動要支援者の避難	該当者なし				
避難の実施により健康リスクが高まる在宅の避難行動要支援者及びその支援者を放射線防護施設に輸送※4	12人 (要支援者6人 +支援者6人)	0台	0台	3台 (要支援者6人 +支援者6人)	・放射線防護施設に輸送 ・支援者等の車両での避難によりその分必要台数は減少 【資料P28】
その他の施設敷地緊急事態要避難者(妊婦・授乳婦・乳幼児・乳幼児の保護者等)を避難先施設に搬送	46人	2台	0台	0台	「乳幼児の保護者等」には、乳幼児がいる世帯人数を計上
観光施設等から避難する一時滞在者	該当者なし				
合計	58人	2台	0台	3台	

※1 数字は現段階で小浜市が把握している暫定値

※2 バスは1台当たり45人程度の乗車を想定

※3 福祉車両(ストレッチャー仕様)は1台当たり1人、福祉車両(車椅子仕様)は1台当たり2人の避難行動要支援者を搬送することを想定

※4 「避難の実施により健康リスクが高まる者」は、安全に避難できる準備が整うまで、放射線防護施設内に屋内退避。

➤ 施設敷地緊急事態発生時には、在宅の避難行動要支援者の避難等のために、福井県嶺南地方のバス会社が保有する車両のほか、小浜市内の医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会や関西電力が配備する車両により、必要車両台数を確保。

		確保車両台数			備考
		バス	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 必要車両台数		2台	—	3台	
(B) 確保車両台数		2台	—	計3台	
確保先	・小浜市 ・医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会(小浜市)	—	—	2台	保有車両台数 バス 2台 福祉車両(ストレッチャー) 5台 福祉車両(車椅子) 36台
	バス会社(福井県嶺南地方)	1台	—	—	保有車両台数 バス 193台
	関西電力	1台	—	1台	保有車両台数 バス 9台 福祉車両(ストレッチャー、車椅子兼用) 21台 福祉車両(車椅子) 11台

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、関係自治体の要請により実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)が必要に応じて支援を実施